

平成30年度・令和元年度・2年度 水戸市教育委員会研究指定

第四中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

研究紀要（3年次）

研究主題 児童生徒，教職員の交流を図りながら，

「よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指して」



第四中学校区

—水戸市立吉田小学校・酒門小学校・吉沢小学校・第四中学校—

〈 目 次 〉

グランドデザイン -----	1
1 主題設定の理由 -----	2
2 研究のねらい -----	2
3 研究の組織について -----	2
4 研究の内容 -----	3
(1) 1年次の取組 -----	3
① 児童・生徒交流研究部 -----	3
② 話し合い活動研究部 -----	4
③ 記録・広報研究部 -----	4
④ 教職員の交流について -----	4
(2) 2・3年次の取組 -----	5
① 学力向上部会 -----	5
② 規範意識向上部会 -----	6
③ 体力向上部会 -----	7
④ 交流活動部会 -----	8
5 成果 -----	9
6 課題 -----	9
資料 道徳科学習指導案(略案)・授業記録 -----	10・11

令和2年度

吉田小・酒門小・吉沢小・水戸四中

# 水戸市立第四中学校区小中一貫教育

## 小中一貫の教育目標

## グランドデザイン

心身ともに自らきたえ、知性豊かな児童生徒

指導体制  
学校運営体制

小中間で 学校と地域で  
「つなぐ」「そろえる」  
教育活動の推進

- 小中教員の相互研修
- 小中学生の交流の推進
- 地域との交流の推進



## 具体的施策

1 学力向上を目指して

- 諸テスト結果をもとにした小中職員の協働による分析・指導方法の改善
- 相互授業参観による授業力の向上
- 児童・生徒共通の「学習の約束」や教師側共通の「授業構成」の検討 等

2 規範意識の向上を目指して

- 実態の把握と情報の共有
- 9年間を見通した「学校生活の約束」の検討
- 道徳的心情・道徳的実践力の育成 等

3 健康・体力の向上を目指して

- 体力テストの結果を踏まえた活動
- 健康・安全に関する自己管理能力を高める工夫
- 魅力ある学校行事の工夫 等

4 小中学生・地域との交流の推進

- 小学校間、小中学校間交流の充実（リーダー研修会、学びの広場、陸上、音楽関係、話し合い活動等）
- 地域の清掃活動や祭り等、ボランティア活動の充実
- 小中一貫教育の情報発信（各学校ホームページ） 等

## 令和2年度の重点施策

特別活動・道徳教育の充実、学力・体力の向上

- 学級活動（話し合い活動）や児童会・生徒会活動の連携・充実、道徳的心情・道徳的実践力の育成を図ることにより、自分たちの手で四中学区全体をよりよくしようとする意欲と行動力を高めていきます。
- 9年間の学びの連続性を重視して教師の授業力の向上、児童生徒の健康・体力の向上に取り組むことにより、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する力を育てていきます。

第四中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

吉田小学校 酒門小学校

吉沢小学校 第四中学校

めざす児童生徒像 心身ともに自らきたえ、知性豊かな児童生徒

研究主題 児童生徒，教職員の交流を図りながら，  
「よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指して」

### 1 主題設定の理由

第四中学校区の三つの小学校はそれぞれ全校児童数約600名の規模であり，第四中学校においては生徒数900名を超える大規模校である。小中学校4校では，以前より「児童生徒の情報交換会」や「学習指導や生活指導についての情報交換会」が行われ，児童が中学校へスムーズに移行し，安心して生活できるよう環境づくりに努めてきた。また，中学校の吹奏楽部や合唱部が各地区の地域行事の中で演奏に参加したり，多くの生徒がボランティアとして参加したりするなど，交流活動も行われている。地域の方は学区の子どもたちの活躍を楽しみにしており，学校行事や地域行事への関わりも積極的で協力的である。児童生徒や地域・保護者を含め，学校内外で多くの人との関わりがあり，活気あふれる活動が様々なところで見られるのがこの学区のよさである。

そうした中，これからの時代を担う子どもたちには，他者と協働して課題を解決していくことや確かな学力を習得し活用する力が求められることから，9年間を見通した連携をより一層推進していくことが必要である。

そこで，各学校の実態を考慮しながら，小中学校が「そろえる」「つなげる」活動を吟味し実践していくことで児童生徒の確かな成長につなげていくことが大切である。また，大規模校で人との関わりが多いという特性から，多様な児童生徒を一つにまとめ，よりよい集団をつくることを実践の基盤と捉え，規律の順守や児童生徒の自主的・自立的な活動等への支援を共通実践することがより一層求められる。

以上のことから，児童生徒自らがよりよい学級から学年，さらに，学校をつくり上げようとする意欲と行動力を高める。さらに，9年間を見通して「継続してできること」を基本に，児童生徒の育成を目指していきたいと考え，本主題を設定した。

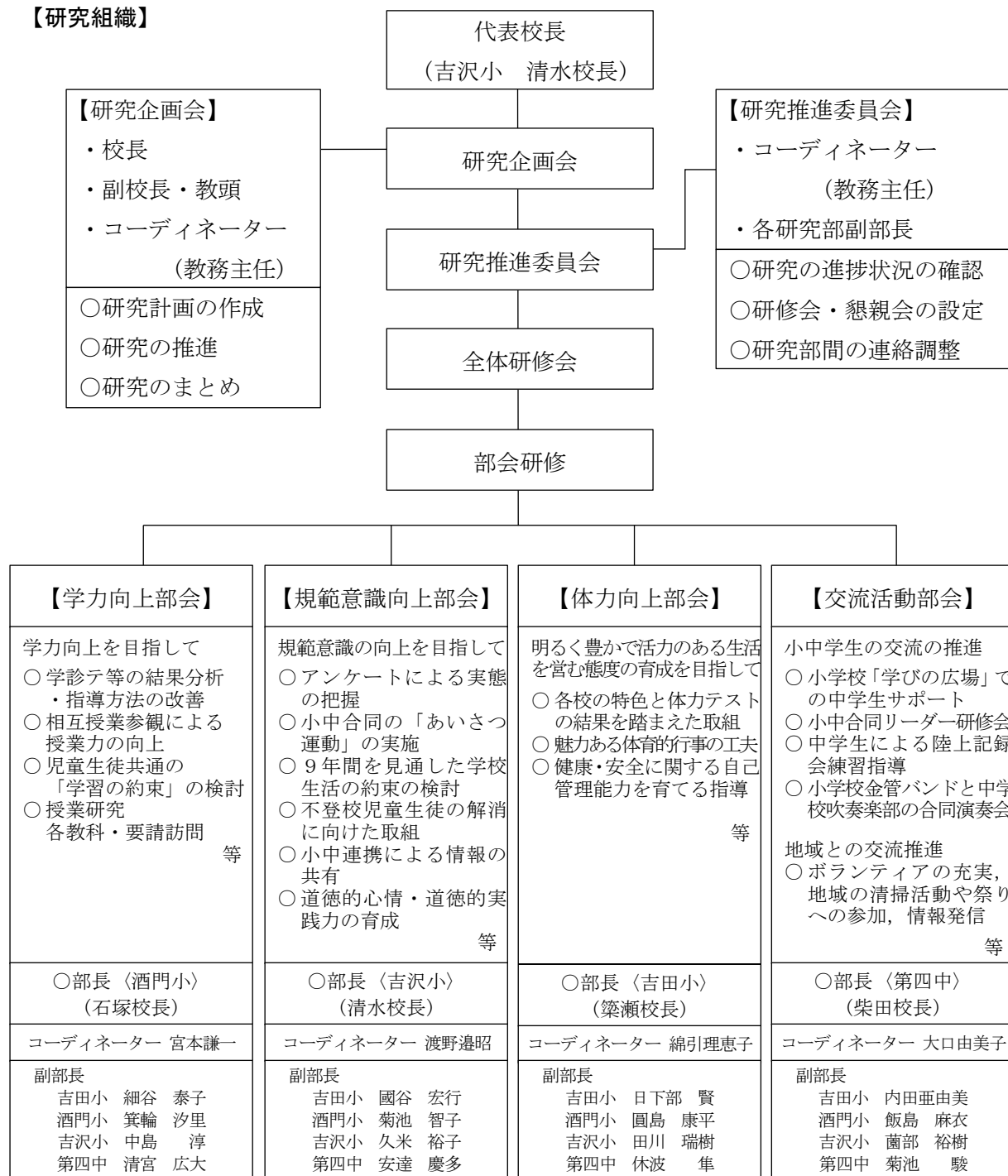
### 2 研究のねらい

- (1) 特別活動において，行事や話し合い活動の進め方等を小中共通で設定・実践していくことにより，学級活動や児童会・生徒会活動の活性化を図る。
- (2) 9年間の学びの連続性を重視して「学習の約束」や「共通の授業構成」の検討，授業力の向上に取り組むことにより，基礎的基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する力を育む。

### 3 研究の組織について

学力向上部会と体力向上部会の組織は，研究1年次からそのまま継続した。2年次からは，道徳部会と生徒指導部会を統合して規範意識向上部会とした。また，特別活動部会と地域との交流推進を統合して交流活動部会とした。四つの部会を学区の4学校で分担し，各学校の校長・副校長を部会の部長とした。小中一貫教育コーディネーターと各学校代表1名の副部長が中心となって各部会の研修等を進めることとした。

【研究組織】



4 研究の内容

(1) 1年次の取組

特別活動において、行事や話し合い活動の進め方等を小中共同で設定・実践していくことにより、学級活動や児童会・生徒会活動の活性化を図る。

① 児童・生徒交流研究部

ア 小中スクールリーダー研修会(平成30年8月16日)

各校児童会、生徒会のメンバー43名と引率の教員が参加し、水戸市少年自然の家で実施した。平成29年度より実施しており、その充実を図った。リーダー研修会は小学生が中学校へ進学してもリーダーとして活躍できる資質を高めるとともに、中学生は下級生と連携を図ってよりよいリーダーシップを発揮できるようにと願って設けられたも



のである。第四中地区青少年育成会から支援を受け、第四中学校区のリーダーとして将来も活躍できる期待が込められている。

午前はグループごとの野外調理を実施し、協働の活動を通じて関係づくりを図った。午後には、各学校のよさや課題を話し合い、第四中学区で「めざす学校像」とその実現のために何をするのかを模造紙にまとめ、発表を行った。

#### イ 第四中生徒会による「第四中学校区小中学校 めざす学校像」の提案

2学期には、夏休みのリーダー研修会の結果を受けて、中学校生徒会で「第四中学区 めざす学校像」を決定した。

「ありがとう」「おもしろい」「チャレンジ」「やりきる」の四つの言葉を大切にしたい学校とし、四葉のクローバーの形に配置したマークを作成して、実践することで学区全体が幸せにつながることをアピールした。



#### ウ 小学校で全校集会の開催（「めざす学校像」を受けて）

中学校生徒会で決定した「めざす学校像」を受けて、各小学校で「おもしろい」を実現するための「いじめゼロフォーラム」が開かれた。実際に同じ場所に集まることが難しくても、第四中学区の子供生徒がつながっているということが低学年の子供にも伝わった。

### ② 話し合い活動研究部

#### ○ 学級活動（話し合い活動）で小学校共通で理解しておくことを確認（平成30年8月3日）

学区の教職員が第四中に集まり、学級活動の「話し合い活動」の流れを「そろえる」というねらいで話し合った。それによって統一した形式を活用し、2学期から小学校で実践することができた。

### ③ 記録・広報研究部

#### ○ 小中共通「小中一貫コーナー」掲示物の作成

児童生徒や保護者等に、小中一貫の交流の様子を知らせるために、小中共通の掲示物を作成した。「協働する第四中学区」をタイトルに交流の様子を写真で掲示した。

### ④ 教職員の交流について

#### ア 学習定着状況分析会議

5教科の教科主任や6学年担当者が集まり、各学校の学力の情報交換を行い、学区として学力向上に向けて小中共通に取り組むことや、取り入れたい他校の実践をまとめた。社会科では「授業の振り返りを自分の言葉でまとめる」ことにより表現力や社会科用語の知識が定着することを確認した。また、理科では「顕微鏡が正しく使えるかを一人ずつ確認することにより器具の使い方の理解を深めることなど具体的な取組をまとめることができた。

#### イ 栄養教諭による食育指導

給食時に、栄養教諭が各小中学校を訪問して食育指導を実践した。小・中学校の栄養教諭同士の食に関する指導を協働で行うことで、小学校で指導した児童が一回り成長した中学生の姿を見ることができ、改めて9年間の小中一貫の指導の大切さを再認識した。

#### ウ 小学校陸上記録会に向けての中学校の協力

以前から中学校の協力を得て取り組んできたものである。中学校陸上部の生徒が指導に当たったこともあったが、1年次は3名の陸上部顧問が、児童に走力を高めるための基礎・基本の練習を指導した。児童の練習に対する意欲が高まり、各自の力を伸ばすことができた。

#### エ 入学式に向けての中学校教師による合唱指導

中学校入学式で、新入生による全員合唱「この星に生まれて」を行っている。そのために2月から3月にかけて中学校音楽教師が各小学校に出向いて指導を行っている。児童は専門的な指導に触れ、中学校進学に対する意識が高まった。

## (2) 2・3年次の取組

### ① 学力向上部会

#### ア ねらい

学力向上部会では、学力の向上を目指し9年間の学びの連続性を重視して取り組んだ。

2年次は学習の約束について話し合い、取り組むことを4校で共有させた。また、4校の担当者が集まって学習定着状況調査の結果を分析して、4校共通の課題を見出した。

3年次は、コロナ禍での休業中の4月に各校の副部長が集まり、取り組むことを確認した。学校再開後は、各校が確認したことに取り組み、実践したことをまとめるために、再度8月に副部長が集まった。

三つの小学校が、学習の約束を共有化して学習指導に取り組むことは、児童が第四中学校に進学した後、円滑に学習に取り組めることにつながるだろうと考えた。

#### イ 取組

##### (ア) 学習の約束の共有

3年次が始まるに当たり、4校の学力向上部の副部長が集まり、児童生徒の学力を向上させるための、9年間の学びの連続性に着目して話し合った。2年次に話し合ったことをもとにして、次の点について、4校が共通して実践することとした。

##### ○ミニテストに関すること

- ・点数をとりやすい内容で定期的実施
- ・A5程度、10分間で終了できる(取り組むことができる)内容
- ・月1回×2教科(漢字と計算)



【学力向上部員の話し合い】

##### ○黒板やノートの使い方に関すること (算数・数学)

- ・問題-----青 枠
- ・課題-----青下線
- ・まとめ-----赤 枠
- ・単位-----赤 ○

##### ○自主学習に関すること

- ・内容は、各校オリジナルで
- ・小学校：学年×10+10(分)
- ・中学校：生活ノートに基づいて

3年次については、臨時休業期間があったため、実践できる期間が短くなってしまった。しかし、大部分の取組が2年次からの継続であり、学校再開後、すぐに実践することができた。中学校区内での取組みが日常化されることは、臨時休業等の不測の事態が生じて、学習指導に関する約束事の共有を容易にすることにつながった。

##### (イ) 学習定着状況調査結果の分析

2年次に、各校の学力向上部員や該当学年担当者が第四中学校に分析結果を持ち寄り、4校共通の課題を確認した。水戸市総合教育研究所の平戸拓也指導主事の指導を仰ぎながら、確認した課題への対策のための取組についてまとめた。

3年次は学習定着状況調査が中止となってしまったが、4校が中学校の学習面の課題を把握すること、把握した課題を克服するために、小学校3校が共通して指導することを確認することは、学力の向上につながると考えた。各校の副部長から、来年度以降も継続していきたいという意見が挙げられた取組であった。

##### ○4校共通の課題

(抜粋)

国語 --- 接続詞

社会 --- 地図の活用

算数 --- 式と図をつなげる思考、複合図形の求積

理科 --- 顕微鏡の使い方、実験の技能

英語 --- 書くこと

## ② 規範意識向上部会

### ア ねらい

よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指し、4校での発達段階を含めた共通理解と共通実践を図る。

### イ 取組

#### (ア) 実態把握と実践の方向性

- アンケートによる実態の把握
- 小・中合同の「あいさつ運動」の実施
- 9年間を見通した学校生活の約束の検討
- 不登校児童・生徒の解消に向けた取組
- 小中連携による情報の共有
- 道徳的心情・道徳的実践力の育成

#### (イ) 規範意識向上部会研修会の実施

- 日時：令和元年8月1日
- 場所：吉沢小学校図書室
- 内容
  - ・ 各学校の現状
  - ・ アンケートの内容の検討
  - ・ 2・3年次の研究計画の内容と方法及び今後の活動

#### ○ 話し合った結果

「各学校の現状や統一したい約束」の話合いでは、特に服装等各学校で統一されていない「靴の色や靴下の色」、「女子の髪の毛のしぼり方」等を統一すべきではないかとなった。しかし、中学生になると、規範意識の高まりが見られ、中学校のルールに従うので、特に小学校段階で統一しなくてもよいのではないかという結論になった。

また、中学生が小学校に来て、一緒にあいさつ運動をするという方法は、学校が離れているので、あいさつ運動後、小学校から中学校に向かうことが難しいという問題が挙げられた。特に、朝の交通量の問題は、安全面でも難しく、今後、実施に向けて課題となっている。さらに、あいさつの推進については、良いあいさつができれば「掲示物のあいさつの花の花びらを増やす」や「メダルをあげる」等、意識を高めるための取組がなされており、今後も各学校の取組に期待したい。

#### ○ 「規律と協働を高める八策アンケート」の活用

各学校とも、あいさつや礼、授業の始めと終わりの礼、かかとを揃える等の指導を、意識的に行っている。現状を把握することができたので、今後その他の項目に対しても、具体的に意識をして取り組むようにしていきたい。

#### (ウ) あいさつについての活動

3年次は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、思うような活動ができなかった。その中、次の2点を行った。

#### ○ あいさつ・礼儀に関する道徳の授業の実施

第四中学区全体で、どのクラスもあいさつ・礼儀に関する道徳の授業を行うことを実施した。また、そのワークシートを模造紙にまとめたものを4校分作成し、各学校に掲示し、それぞれの道徳の授業の様子や意識について共通理解を図るようにした。

#### ○ あいさつについてのスローガンの作成

中学生が母校でのあいさつ運動をすることが不可能となり、部会で話し合った結果、第四中学校区統一のあいさつのスローガンをもとにした各学校のスローガンを作成し、それぞれの学校の委員会が中心となって、あいさつを呼びかけるということを行った。その結果、あいさつの大切さがわかり、意識向上を図ることができた。



【規範意識向上部会研修会の様子】



【道徳のワークシートの掲示物】



### ③ 体力向上部会

#### ア ねらい

体力向上部会では、「明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を目指す。

#### イ 取組

##### (ア) 体力テストの結果を踏まえた取組

2年次は、各校の体力テストの結果を踏まえ、「投力アップのための体づくり」に重点を置き、共通の内容で、各小中学校で取り組んだ。

いつ	始業前・朝の会	体育の授業のアップ時	業 間
内容	・片足バランス ・グーパー運動	・鉄棒ぶら下がり ・キャッチボールマスター的なもの	・キャッチボールマスター

3年次は、臨時休校により体力の低下が課題となったため、体力の回復を最重点とし、家庭でできる運動をHPにアップするなど、家庭への啓発に取り組んだ。

##### (イ) 健康・安全に関する自己管理能力を高めるための取組

2年次から、「一人ひとりの生活習慣を見直す」ことに重点を置き、自己の健康への関心を高め、改善していこうとする意識の高揚を図った。4校共通の生活習慣チェックカード（グッドモーニングカード）を作成し各校で取り組むこととした。

3年次は、長期休業明けに規則正しい生活のリズムを取り戻すことを重点とし、生活習慣の見直しに取り組んだ。実施時期は、夏休み明けの9月（実施済）、冬休み明けの1月（予定）とした。

実施時期	学期1回長期休業あけ（5月連休明け、夏休み明け、冬休み明け） 土・日をはさむ1週間
内 容	就寝時刻、起床時刻、朝食摂食、排便、歯磨き 自分が特に頑張る目標を設定して取り組む。
評 価	自己評価（各項目は○×、全体評価は4段階）とする。保護者にも連絡

生活習慣チェック 目標達成度	□全然	□あまり	□だいたい	□できた
R1度2学期	5%	17%	59%	19%
R1度3学期	3%	20%	58%	19%
R2度1学期	4%	17%	55%	23%

##### (ウ) 魅力ある学校行事の工夫についての取組

「体育的・学校行事における児童生徒・教員の交流」に重点を置き、特に、小学校の陸上記録会に向けて、中学校の陸上部と連携をとり、第四中学区全体の体力・技能の向上を図るとともに、児童生徒だけでなく教員の研修の場も設定し取り組むこととした。

R元年 9月 25・26日	小学校陸上競技会に向けた指導者講習 第四中にて	中学校陸上部員 各小学校教員 15名参加
R元年 10月 16・17日	小学校陸上競技会に向けた練習会 各小学校にて	吉田小へ、酒門小へ、吉沢小へ のべ22名参加



#### ④ 交流活動部会

##### ア ねらい

小中学生の学校間交流活動及び地域との交流活動を推進し、「つなぐ」「そろえる」教育活動を実践する。

##### イ 取組

2年次は、1年次の実践を引継ぎ、第1回部員研修会で役割を分担し、それぞれの交流活動の担当者を明確にした。各担当者は、各活動の計画の立案、連絡調整、文書作成・発送、記録等の活動を行うこととした。

##### ○ 2年次の交流活動等

- (ア) 小中スクールリーダー研修会
- (イ) 第四中生徒会による「第四中学校区小中学校 めざす学校像」の実践
- (ウ) 「おもいやり」を実践する実現するための「いじめゼロフォーラム」の開催
- (エ) 学級活動の「話し合い活動」の共通実践（話し合い活動の流れの共通化）
- (オ) 小中共通「小中一貫コーナー」掲示物の作成
- (カ) 吹奏楽部の定期演奏会での小学校スクールバンドの演奏
- (キ) 小学校学びの広場での中学生の支援・補助
- (ク) 入学式に向けての中学校教師による合唱指導
- (ケ) 小学校陸上記録会に向けての中学生の協力
- (コ) 各地区の祭りでの手伝い（すみかみ・よしざわ・吉田ふれあい・酒門）
- (サ) 水戸黄門漫遊マラソンでの補助
- (シ) 東部公園清掃

##### (ア) スクールリーダー研修会

- 令和元年7月25日(木)
- 水戸市少年自然の家
- 児童27名、生徒19名、引率14名、計60名参加
- 午前 鉄板焼き（昼食）
- 午後 話し合い「クローバー（おもいやり）」について



【スクールリーダー研修会】

##### (キ) 小学校学びの広場での中学生の支援・補助

- 令和元年7月23日(火)～26日(金)
- 各小学校の卒業生徒がそれぞれの小学校へ3～5日間訪問
- 中学1年生のべ249名参加



【小学校学びの広場 中学生支援・補助】

##### (コ) 各地区の祭りでの手伝い

- 令和元年11月10日(日)
- 場所 東部公園
- ボランティア14名参加
- 活動内容  
棒付きパン調理手伝い  
販売補助



【吉田ふれあい秋まつりボランティア】

3年次は、1年次に決めたスローガンをより周知できるよう「ありがとう」「おもいやり」「やりきる」「チャレンジ」の言葉のイラストを募集した。(新型コロナウイルス感染予防のための臨時休校期間の課題)

4校の作品を合わせたマークが完成した。(裏表紙参照)

## 5 成果

- ・各校の部員が話し合う機会を設けることで、地域や他校の特色や実態を知ることができ、第四中学区としての理解を深めることができた。
- ・各部会研修会等を通して、教職員間の交流が活性化し「つながり」が強まるとともに、若手教員をはじめとして教職員の資質向上を図ることができた。
- ・9年間の学びの連続性を深めることは、児童が第四中学校に進学した後、円滑に学習に取り組めるようにすることにつながった。(学力向上部会)
- ・第四中学校の学習上の課題について4校の共通した理解を図ることは、小学校でも対策を練ることにつながり、中学校区全体の課題への対策になった。(学力向上部会)
- ・道徳による、あいさつ・礼儀に関する授業の実践を呼びかけ掲示物を作成することで、各学校の道徳への取組が分かるようになった。(規範意識向上部会)
- ・あいさつのスローガンを第四中学校区統一のものから、学校ごとに作成し、それぞれの学校で呼びかけることで、あいさつに対する意識の高揚が見られた。(規範意識向上部会)
- ・2年次からの新しい試みであった第四中学区共通の「生活習慣チェックカード」の活用により、健康・安全に関する意識の高揚が図られた。第四中学区全体で児童生徒を育て高め合う取組として継続していく。(体力向上部会)
- ・児童生徒・教職員の交流については、陸上練習会において各小学校の卒業生が多数参加し、児童生徒の交流ができた。成長した中学生の姿を小学校の教員に見せるよい機会にもなった。また、児童生徒の交流だけでなく教職員の交流も図られた。無理なく継続していく。(体力向上部会)
- ・3年次はコロナ禍でも実施できることを考え、スローガン「しあわせのクローバー」のシンボルマークが完成したことがよかった。(交流活動部会)
- ・道徳の公開授業(第四中)を実施し、特に若手教員資質向上が図れたことがよかった。(交流活動部会)

## 6 課題

- ・各部会の活動を更に吟味検討し、無理なく継続できる小中一貫教育を目指す。
- ・学期に1回程度、各校の部員が集まって話し合う機会を設けることは、実践を継続していくために必要である。
- ・この3年間で多くの職員の入れ替えがあった。それでも活動が継続していけるように、全職員で共通理解を図る。
- ・コロナ禍の中での話合い活動の在り方について、4校が共通した形態で取り組んでいけるようにする。(学力向上部会)
- ・今後も、規範意識向上を目指し、第四中を軸として、小中連携に関する話合いを行っていききたい。そして、継続して全職員の共通理解を図っていききたい。(規範意識向上部会)
- ・「投力アップのための体づくり」については、試行錯誤しながら取り組んでいる。なかなか投力向上へつながらないが、継続できる運動の工夫を今後も検討していく。(体力向上部会)
- ・2年次には、交流活動部会として12の活動ができたが、3年次はコロナウイルス感染予防のため実施が難しかった。資料を整理し、次年度以降実施できるよう引き継ぐ。(交流活動部会)

【資料】

第3学年4組 道徳科学習指導案（略案）・授業記録

1 主題名 法やきまりを守り社会で共に生きる C-(10) 遵法精神, 公徳心

2 ねらいと教材

(1) ねらい

規則より心情を優先させたために起こったトラブルを描いた物語を通して、規則は何のためにあるのか考えさせる活動を通して、規則を守って行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 教材名 「二通の手紙」(光村図書 「中学道徳 中学校3年」)

3 学習指導過程

	主な学習活動と発問○	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価 評
導入	1 「規則」についてアンケートをもとに考える。 ・ 規則を破ってしまうときは、どのようなときですか。 ・ 規則は何のためにあるのか。 規則について考えよう。	・ 赤信号なのに、横断歩道を渡った。 ・ 廊下を走った。 ・ 安全安心に生きるため。 ・ 平和に生きるため。	・ アンケート結果を確認する。 ・ 多くのきまりが守られているが、守られていないきまりもあることを確認する。
展開	2 「二通の手紙」前半 (~P. 36, L5) を読んで話し合う。 ○ あなたは幼い姉弟を動物園に入園させますか。 〔個人→全体〕  3 「二通の手紙」後半 (~P. 38) を読んで話し合う。  ◎ 元さんの「この年になって初めて考えさせられた」のは、どんなことだったでしょうか。 〔個人→全体〕	【入れる】 ・ 姉の気持ち分かるから。 ・ 弟の誕生日だから。 【入れない】 ・ 入れてはあげたいが、規則は規則。 ・ 何かがあったら取り返しがつかない。 ・ もし事故が起きたら責任をとることができない。  【規則に対する甘さ】 ・ 保護者同伴でないのに入れてしまったことは間違いだった。 ・ 入園終了時間が過ぎて入れてしまったことは間違いだった。 【心情に流された元さんの弱さ】 ・ 姉弟に同情して入れてしまったことは間違いだった。 ・ 特別な日だからといって入園させてしまったことは間違いだった。 【元さんの責任】 ・ 自分の力で特別に二人を入園させることができる。何事もなく帰ってくると思っていた。 ・ 無責任な判断だった。 【規則を守る難しさ】 ・ 規則を守らないといけないことは、頭で分かっているけど守り通すことは、難しいと分かった。	・ 動物園に「入れる」か「入れない」かの考えを心情円盤を用いて表す。迷う生徒もいると思うが、入園係ならばどちらかに判断しなくてはならないので、「入れるか」「入れないか」の2択で考えさせる。  ・ 「母親の手紙」と「懲戒処分」の2通の手紙をもらったときの元さんの気持ちを考えさせたい。 ・ 「失望の色もなく、晴れ晴れとした顔で片付け始めた」のは「この年になって初めて考えさせられた」ことが原因であると考えられる。 ・ 元さんが考えさせられたことを分類整理する。 ・ 規則を守ることの難しさ、それでも守ることの大切さ、規則を破ることに伴う責任や周りへの影響など、多様な視点から規則を守ることにについて考えさせる。 ・ 補助発問として「姉弟を入園させたことは、思いやりのある行動であったのだろうか」と問い、規則を守ることが姉弟を本当の意味で守ることに繋がると考えさせたい。
終末	4 授業の振り返りをする。 ・ 規則は、何のためにあるのかももう一度考える場とする。	・ 規則を守り続けることは、難しいが、守り続けることが大切だと分かった。 ・ 自分だけが責任を負えるわけではないので、規則は守り続けたいと分かった。	◎規則は、何のためにあるのかを考え、守ることの大切さに気付く。 〔発表・ワークシート〕



4 授業記録 令和2年10月19日実施

	主な学習活動と発問○	生徒（S）の反応
導入	<p>1 「規則は何のためにあるのか」 4組のアンケートを覚えていますか。今日はその結果を見てみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">規則について考えよう。</div>	<p>S1： あ～やった，やった。 Tがホワイトボードに結果を掲示。 S2・3・4： 靴下違反。廊下を走った。信号無視。 S5： 信号無視はやらないよ。</p>
展開	<p>2 「二通の手紙」前半（～P.36，L5）を，読んで話し合う。 ○ 登場人物を確認しましょう。 ○ （あなたは）姉弟を入園させますか。</p> <p>3 「二通の手紙」後半（～P.38）を 読んで話し合う。 ◎ この歳になって初めて考えさせられたのはどんなことかな。 ○ 人の心と規則って逆の関係にあると思いますか。</p> <p>○ 何の手紙が届きましたか。 Sの発表を聞きながら，手紙の掲示物を黒板に貼る。</p>	<p>Sが登場人物について発表。 動物園にいそうな動物を言うSも。 Sは各自の半円図で意思表示。 <b>14名→赤（入れる）</b> S6： 小さなことぐらい破っても大丈夫。 S7： 弟の誕生日だから。私だったら一緒についていく。 S8： 姉がとてもしっかりしているようだから。 S9： 毎日来ていた子たち。特別な日。追いつくにはしのびない。 S10： だめなことは分かっているが，姉の気持ちを大切にしたい。 S11： 1日だけその子たちの親になって回ってあげたらいいんじゃない？ S12： 規則よりも姉の気持ちが大切だと思いました。 <b>14名→青（入れない）</b> S13： もし入れてしまいケガや事故があったら取返しがつかない。 S14： 1回許すと何回も入れるようになってしまうから。 S15： この子供たちを入れると他の人も入れないと不公平になる。 S16： （入園）時間を過ぎだから誰も見ていない。いいのでは？ →S17： 閉園時間まではまだ人がいるからダメだよ。 S16： あ，そうか。他にもいるならだめかな。 S18： 規則と人の気持ちどちらを選ぶのかということ。危険はあるけど人の心は踏みにじらない。 （教室が静まり返る） S18： 先生！人の心っていうのは相手の気持ちっていうのもあります。 S13： 人を守るために規則はあるから規則の中に思いやりは含まれている。 S19： 自分がいいと思っても危ないことがある。 S20： ルールを守ってこそ幸せになる。 S6： 優しさでも時には厳しくダメということも大切。危ない目にあわせてしまうかもしれない。 S21： 元さんに子供がいなかったのが情が湧いた。2人の事情を考え，どうしても入れたかった。  S22： 姉弟の母からの感謝の手紙。 S23： 懲戒処分の手紙。</p>
終末	<p>4 授業の振り返りをする。 ・ 規則は，何のためにあるのか，もう一度考える場とする。 ○ もし事故が起きていたら，感謝の手紙は来ましたか。</p>	<p>S6： 今回の授業で最初はかわいいそう，ちょっとぐらい何もないだろう，バレないだろうと思って入れてしまう派だったが，授業の中で危険な目に合ってからじゃ遅い。規則を守ることで人を守れると学び，最後には「入れない」という意見に変わり，いい授業だったと思う。 S13： （Sは懲戒処分の通知にとってもショックを受けていた） やっぱり…（小さな声で）お父さんの具合が悪く，母が子供を置いて働きに行かないといけない働き方に問題があると思うな…。</p>

# しあわせのクローバー



～ 小中一貫教育スローガン ～

吉田小・酒門小・吉沢小・第四中の第四中学区全体をよりよくしようと、平成30年度につくられたスローガンです。

四つのハートを育てることで「しあわせ」な学校生活が送れるようにという願いが込められています。

イラストは、今年度5月の臨時休校中の課題として児童生徒が描いたものの中から、各学校が1枚ずつ選出し、一つに合わせました。